きらり

令和8年11月
舞鶴市立新舞鶴小学校
通級指導教室　62−4643

一人一人の挑戦と、みんなとのつながり

小学校の一大イベントである運動会が無事に終わりました。例年以上の暑さの中、子どもたちは練習の成果を発揮し、演技や競技に全力で取り組みました。運動会後の通級で感想を聞くと、「去年より徒競走の順位が1つ上がった」「踊りをめっちゃ頑張った！」など、一人一人の達成感が伝わってきました。今年の集団演技では、低・中・高学年ごとに、個々の技や動きのすばらしさだけでなく、仲間と力を合わせて作り上げる隊形移動や表現にも心を動かされました。



一人一人の力と、集団としての力。どちらも学校生活の中で育てたい大切な力です。一方で、通級指導教室では担当者と子ども1～2人で活動することが多く、仲間の存在を感じる機会は限られています。そこで10月は、プレイルームの運動で、「1分間シュートチャレンジ」に取り組みました。1分間でバスケットゴールに何回シュートを入れられるかに挑戦し、その記録を黒板に残していく活動です。普段は顔を合わせることのない通級の友達同士が、記録表を通してお互いの存在を感じられたらという思いで始めました。

始めて1週目は、たくさんシュートを入れたい、1番多く入れている子を追い越したいと、自分の記録を伸ばすことに気持ちが向いている子が多くいました。また、タイマーのカウントダウンに焦り、大慌てになる子も少なくありませんでした。

しかし、記録表に名前が増えてくると、「あ、7回って○○さんと同じや。」「1位の□□くん、さすがやな。」「先生よりたくさん入ってる子がいるの？」など、友達にも目を向けるようになってきました。さらに2週目になると、「前は8回だったから、今日は10回を目指す！」「練習で4回だったから、本番は5回以上入れたい。」など経験を振り返り、自分なりの目標を立てる姿も見られました。タイマーを意識しながらも、シュートに集中するようになり、目標に届かなくても「あ～、もうちょっとで（目標に）いけたな。」と、わずかな時間で気持ちを切り替えて、前向きに受け止める子が増えてきました。

友達の頑張りや挑戦を知ることは、相手を認める気持ちを育むだけでなく、自分の取り組み方を見つめ直すきっかけにもなります。子どもたちは、記録表を通して仲間の存在を感じながら、自分なりの目標に向かって挑戦する力も育んでいました。これからも、通級指導教室ならではの活動を通して、仲間の存在を感じ、互いを認め合える機会を作っていきたいと思います。

